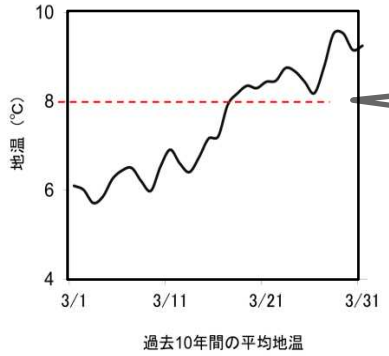
京都府北部地域における良質茶生産技術の確立
積雪地帯に適した施肥技術の確立

（農林センター）

主　旨

府北部では積雪で茶園が過湿になり、春先の施肥作業が適期に行えないことが一番茶の品質を不安定なものにしている原因。
そこで、一番茶に対し肥効を適期に発現させる施肥体系を確立。

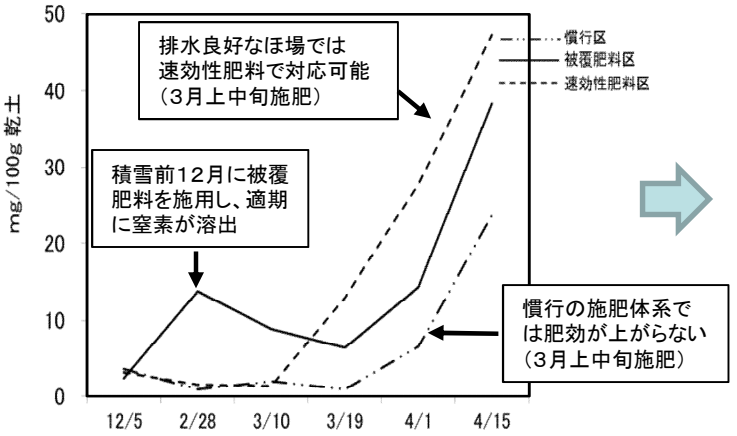
施肥体系の見直しにより一番茶の生産性が向上



過去10年間の平均地温

茶の根が活動を開始するとされる地温8℃となる時期はほぼ3月中旬である。

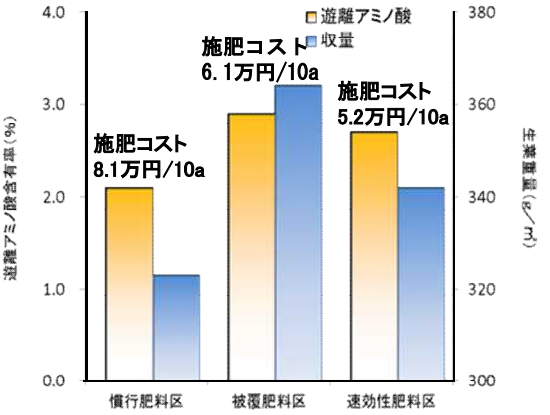
3月上中旬には肥効を高めた状態にしたい



土壌中の無機態窒素含有量

地温が8℃以上になったのは3月中旬以降

収量、うまみ成分が向上



遊離アミノ酸含有率と収量

具体的な研究成果

- 12月に被覆肥料を利用し３月上中旬から土壌中の窒素成分含量を高めることが可能
- 排水良好なほ場では速効性肥料を使い早期から肥効を高めることが可能
- ３月上中旬から肥効を高めることにより、一番茶の収量、うまみ成分が向上

研究成果の活用場面、波及効果等

- 慣行の施肥体系を見直し被覆肥料や速効性肥料を利用することにより、適期に一番茶に対する肥効を高めることができます。
- 収量増加、茶のうまみ成分向上により農家所得の増加が期待できます。

問い合わせ先：茶業研究所　0774-22-5577